



TITLE:

表紙・目次ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次ほか. 化学研究所学術報告 1929, 1

ISSUE DATE:

1929-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/74542>

RIGHT:

化學研究所
學術報告
第一號

昭和四年十一月

京都帝國大學
化學研究所

目 次

1. 堀場信吉、石井新次郎：— 光に依る膠質の生成（第二報）銅膠質の生成
2. 喜多源逸、菅野源一郎：— 醋酸纖維素皮膜製造及び紡絲試験（第一報）
醋酸纖維素の品質と皮膜の強度との關係
3. 喜多源逸、菅野源一郎：— 同 上（第二報）
皮膜製造條件と皮膜の性質との關係
4. 喜多源逸、植松達己、増田周三：— 同上（第三報）
醋酸纖維素紡絲に就て
5. 喜多源逸、増田周三：— 同上（第四報）
醋酸纖維素溶液の粘度、伸絲能力及び絲の強度に関する觀察
6. 喜多源逸、増田周三、松山紀陽作：— 同上（第五報）
7. 喜多源逸、岩崎振一郎、増田周三、松山紀陽作：—
グイスコースに関する研究（第22報）
グイスコースの比粘度に就て（I）グイスコース熟成中粘度變化の型式
8. 中島正：— 同 上（II）グイスコースの流出速度
9. 喜多源逸、岩崎振一郎、増田周三：— 同 上（第23報）
グイスコース液熟成中の表面張力に就て
10. 木村和三四郎：— 蝸油不飽和脂肪酸の成分に就て
11. 木村和三四郎：— リノレン酸の臭素誘導體に就て
12. 木村和三四郎：— 油脂の新恒數ロダゲン價及び其應用（第一報）
遊離ロダゲン溶液の調製及びロダゲン價の測定
13. 木村和三四郎：— 同 上（第二報）
不飽和脂肪酸に對する遊離ロダゲンの撰擇的作用
14. 木村和三四郎：— 同 上（第三報）
遊離ロダゲンによる油脂の一新分析法
15. 志方益三：— ボーラログラフに依る銅錯鹽の研究（第一報）
16. 志方益三、木田裕次：— 同 上（第二報）
17. 庄司謙次郎：— ボーラログラフに依る醗酵生成物の研究（第一報）
18. 志方益三、庄司謙次郎：— 同 上（第二報）ケトン酸に就て

-
19. 渡邊俊雄、仲田 旭 :— 鉛亞鉛の含銀硫化混合礦の濕式冶金法に關する研究(一)
 20. 渡邊俊雄、仲田 旭 :— 同 上 (二)
 21. 渡邊俊雄、仲田 旭 :— 同 上 (三)
 22. 渡邊俊雄、仲田 旭 :— 同 上 (四)
 23. 渡邊俊雄、仲田 旭 :— 鉛亞鉛硫化混合礦の濕式冶金法に於ける蒼鉛の動作(一)
 24. 渡邊俊雄、仲田 旭 :— 同 上 (二)
 25. SHINKICHI HORIBA & HIDEO BABA :— The Determination of the Vapour Pressures of Sodium and Potassium Chlorides.
 26. SHINKICHI HORIBA & TAIKEI RI :— On the Decomposition of Carbon Monoxide in the Presence of Reduced Nickel. (Preliminary Report)
 27. WASABURO KIMURA :— Über die ungesättigten Fettsäuren des Chrysallidenöles.
 28. WASABURO KIMURA :— Über die Bromderivate der Linolensäure.
 29. KINSUKE KONDO & TSUNETOMO HAYASHI :— The Influence of Salts on the Iso-electric Behavior of the Protein.
 30. KINSUKE KONDO & TSUNETOMO HAYASHI :— On the Iso-electric Point of Glutenin.
 31. KAORU MATSUMIYA & MINORU NAKAI :— On organic Compounds of Arsenic. Pt. IV. Reaction between the Grignard Reagent and Arsenic Trisulphide.
 32. KAORU MATSUMIYA & HISAKAZU NAKATA :— Organic Compounds of Arsenic. Pt. V. The Electrolytic Reduction of 3-nitro-4-hydroxyphenylarsinic acid.
 33. KAORU MATSUMIYA & HISAKAZU NAKATA :— Organic Compounds of Arsenic. Pt. VI. Electrolytic Reduction of Some Aryl-Arsinic Acids.
 34. IKUTARO SAWAI & OTOKICHI MORISAWA :— Über die Zustandsänderung des auf Glas niedergelegten Silberspiegels bei der Erhitzung.
 35. IKUTARO SAWAI & OTOKICHI MORISAWA :— Über die Schrumpfung des Glasfadens beim Erhitzen.
 36. IKUTARO SAWAI & YOSHIHIRO UEDA :— Über die Schrumpfung des Glasfadens beim Erhitzen.
 37. TOSHIMICHI YAMAMOTO :— On the arrangements of the Micro-crystals in Zinc and Cadmium obtained by Sublimation.

抄 録

1. 堀場信吉、李泰圭 :— 還元ニッケルの存在に於ける一酸化炭素の分解 (豫報)
2. 堀場信吉、馬場日出雄 :— 鹽化ナトリウム並に鹽化カリウム蒸氣壓測定
3. 堀場信吉、石井新次郎 :— 光に依る膠質の生成 (第二報) 銅膠質の生成
4. 喜多源逸、菅野源一郎 :— 醋酸纖維素皮膜製造及び紡絲試験 (第一報)
醋酸纖維素の品質と皮膜の強度との關係
5. 喜多源逸、菅野源一郎 :— 同 上 (第二報)
皮膜製造條件と皮膜の性質との關係
6. 喜多源逸、植松達巳、増田周三 :— 同 上 (第三報)
醋酸纖維素紡糸に就て
7. 喜多源逸、増田周三 :— 同 上 (第四報)
醋酸纖維素溶液の粘度、伸糸能力、及び糸の強度に関する觀察
8. 喜多源逸、増田周三、松山紀陽作 :— 同 上 (第五報)
9. 喜多源逸、岩崎振一郎、増田周三、松山紀陽作 :—
ヴィスコースに関する研究 (第22報)
(I) ヴィスコース熟成中粘度變化の型式
10. 中島 正 :— 同 上 (II) ヴィスコースの流出速度
11. 喜多源逸 :— 人絹強度増進の一方法
12. 木村和三郎 :— 蛹油不飽和脂肪酸の成分に就て
13. 木村和三郎 :— リノレニン酸の臭素誘導體に就て
14. 木村和三郎 :— 油脂の新恒數ロゲン價及其應用 (第一報)
遊離ロゲン溶液の調製及ロゲン價の測定
15. 木村和三郎 :— 同 上 (第二報)
不飽和脂肪酸に對する遊離ロゲンの撰擇的作用
16. 木村和三郎 :— エルシン酸分離の一新方法

-
17. 松 宮 馨 :— 砒素の有機化合物に就いて (第一報)
グリニヤール試薬と三鹽化砒素の反應
18. 松 宮 馨 :— アンチモンの有機化合物に就いて (第一報)
 α 、ナフチル、マグネシウムブロマイドとアンチモンの無機化合物
との反應、トリ、 α 、ナフチルスチビン及其誘導體
19. 松宮馨、中井實 :— 砒素の有機化合物に就て (第二報)
グリニヤール試薬と三酸化砒素の反應
20. 松 宮 馨 :— 同 上 (第三報)
三鹽化砒素と水銀の α 、ナフチル化合物との反應
21. 松 宮 馨 :— 同 上 (第四報)
グリニヤール試薬と三酸化砒素の反應
22. 松宮馨、中田久和 :— 同 上 (第五報)
三ニトロ四オキシフェニルアルシン酸の電解還元
23. 澤井郁太郎、森澤乙吉 :— 硝子上に附着せる銀鏡の加熱に因る状態變化に就て
24. 澤井郁太郎、上田義博 :— 硝子糸の加熱に依る收縮に就て
25. 志 方 益 三 :— ボーログラフに依る銅錯鹽の研究 (第一報)
26. 志 方 益 三、木田裕次 :— 同 上 (第二報)
27. 庄司謙次郎 :— ボーログラフに依る醗酵生成物の研究 (第一報)
28. 志 方 益 三、庄司謙次郎 :— 同 上 (第二報)
ケトン酸に就て
29. 渡 邊 俊 雄、小川健一 :— 電氣分銅電解溶液清淨剤としての活性炭素
30. 山 本 利 道 :— 昇華に因つて得たる亞鉛及びカドミウム内に於ける微結晶配列に
就て
-

目次に掲載せる報文のうち別刷部数の都合により
本冊中に收編し得ざりしものあり。

油脂の新恒數ロダン價及其應用 (第一、二報)

工 學 士 木 村 和 三 郎

工業化學雜誌 第三七五號

昭和四年五月五日 發行別刷

工 業 化 學 會

昭和四年十一月二十五日印刷

昭和四年十一月三十日發行

化 學 研 究 所

京 都 帝 國 大 學 内

印刷者 合資
會社 ぐろりあ そさえて

代表者 伊 藤 長 藏

神 戸 市 前 町 十 八 番

Scientific Reports
of
The Institute for Chemical Research.

No. 1.

(November, 1929)

The Institute for Chemical Research,
(Takatsuki)
Kyoto Imperial University.